

Cre 測定対応血液ガス分析装置エポックの導入と課題

◎原田 康夫¹⁾、伊藤 智恵¹⁾、小林 茉穂¹⁾、和田 美歩¹⁾、和田 裕司¹⁾、左右田 昌彦¹⁾
JA 愛知厚生連 江南厚生病院¹⁾

【はじめに】救急診療では外傷による血管や臓器損傷の有無を調べるため造影 CT 検査が必要になる場合があるが造影剤腎症のリスクを伴う。リスク評価は Cre 値を測定する必要があり、Cre 値を迅速に報告することが望まれる。今回、Cre 値が測定可能な血液ガス分析装置エポック (SIEMENS) を導入したので経緯と運用および課題について報告する。

【経緯】当院救急外来では腎機能評価には生化学自動分析による血清 Cre 値を用いており報告には時間を要していた。救急外来医師より迅速な Cre 値の報告を求められていた。しかし、当院稼働中の血液ガス分析装置ラピッドポイント 500e (SIEMENS) は Cre を測定できない。このため業務の流れならびに導入コスト等を考慮し Cre 測定が可能なエポックを選択した。この機器はハンディタイプであること、無線オンライン可能であることから救急外来ならびに検査室に設置した。

【運用】電子カルテの依頼画面にエポックによる血液ガス分析依頼専用のボタンを配置した。また、件数あたりのコ

ストを考慮し救急外来以外での依頼は原則不可とした。検体貼付ラベルはエポックによる依頼と通常の血液ガス分析依頼が識別できる内容にした。結果はオンラインにより検査システムを経由し電子カルテに反映される。機器操作説明は運用開始前に実機器を用いて操作手順、運用の説明を実施した。

【課題】2023 年 9 月より運用を開始し、2023 年 11 月末までに依頼件数は 15 件 (動脈:1 件、静脈:14 件) であった。血清 Cre 値との乖離は認めておらず救急外来よりエポック導入に対して問題は受けていない。しかし、カートリッジが測定可能になるまでの時間管理など問題点がある。業務煩雑時はラベル識別ミス等のリスクが発生し易いため改善が必要である。

【結語】エポック導入による Cre 測定は救急診療の一助と成り得る。今後は継続的に運用面の改善を実施し医師の負担を軽減する必要がある。

連絡先：0587-51-3333 内線：2359